

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 4 月 1 日)

述而第七

18 葉公 孔子を子路に問う。子路対えず。子曰く、女 奚ぞ曰わざる、其の人とな
りや、憤いきどおりをはっ発して食しょくを忘わすれ、楽たのしみて以もって憂うれいを忘わすれ、老おいの將まさに至いたらんとするを知ら
ずとしか云うと。

葉公とは、楚の国の葉県の長官で、今で言えば県知事のようなポストにいる人です。

葉公が子路に対して、子路のお師匠さんである孔子はどんな人かねと聞いたところ、子路は答えられなかった。

孔子がそれを聞いて言いました。

「子路、お前はなぜ答えなかったのだ。『先生の人となりは、物事を一所懸命研究して、どうしても分からないと心の中から何故だ・何故だと興奮が込み上げてきて、食事をする
ことすら忘れてしまい、それに没頭する。それが分かると、嬉しくて楽しくて憂いを全て
忘れ去る。自分がだんだん年をとってきたということも分からないで、毎日を生きている
ような人間ですよ』と。」

「憤を発して食を忘れ、楽しみて以て憂を忘れ」という部分は王陽明も同じです。どうし
ても解けない疑問が、何かの拍子に分かった・悟ったというと、足を踏み手を打ち鳴らし
踊りを踊って身体中で喜びを表すような人間でした。

「老の將に至らんとするを知らず」・・・自分が老年になったということ意識しないで、
だんだんと年を重ねていく。ある程度年をとったら、こういうのは良いなと思います。坂
本坦道先生はご自分を 20 や 30 歳くらい若く思っていたのではないかなという気が致しま
す。

この文章は孔子が 64 歳の頃のものだと言われます。今の日本の政権政党で要職にいる人
たちはだいたいこれくらいの年代だろうと思います。

論語はその状況をイメージして、それを現代に置き変えてみることで面白味が出てくる
と思います。論語をそのままその時代のことを想像して読むだけでは、いま一つ食い足り
ないと思います。

孔子と子路の師弟関係を菅総理大臣に当てはめて考えます。菅さんの元秘書が武蔵野市

の市議員になっています。その人が今回の計画停電で、「皆さんの住んでいる武蔵野市は、私が東電に要請をしたので停電がありません」と言って、それを自慢そうに印刷して住民に配ったという話を聞きました。自分自身の市議員としての顔を潰すような行為ですし、尚且つ菅総理の秘書という看板で選挙に出たわけですから、菅さんの顔も潰しています。この師匠にしてこの弟子ありで、孔子と子路の師弟関係と対比が出来ると感じます。そう考えると、孔子と子路の間柄は実に良い師弟関係だなと思います。

小沢さんとその秘書たちはどうでしょう。自分が逮捕されることも厭わず小沢さんをかばおうとしているところが、菅さんの弟子よりも、秘書としての格が一段上手なのかなと感じます。国会議員ですから、それなりの見識も若干あるのでしょうか。

小沢さんとその秘書たちと孔子と子路との関係に対比してみると、小沢さんも秘書が答えられない時、「自分はこういう人間だ」と言えるような存在であれば、今のような体たらくにはなっていないのだろうと思います。

もう一つ、菅総理は市川房江さんの弟子でした。お師匠さんから見る菅さんという弟子は、かなり程度の低い弟子だったということが、市川さんが亡くなってから色々な形で出てきています。

最後に、自分自身を考えてみて下さい。自分のお師匠さんは誰か、お師匠さんと弟子の自分との関係はどうか。又は、自分がある程度の年代であれば、弟子と言えるような人間がいるでしょうか。そうするとその弟子の人となり、そのまま師匠を表します。時々お弟子さんに師匠である自分はどういう人物か聞いてみて、それなりの返事ができれば結構ですし、できなければ「自分はこういう人間だ」としておく必要があるだろうと思います。自分はどういう人物像かイメージだけで言われたら困るなと思うことが結構ありますので、自分から説明しておいた方がよいと思います。

19 しいわ われ う子曰く、これ し もの あら我は生まれながらにして之を知れる者に非ず。いにしえ この びん もつ古を好み、これ もと もの敏にして以て之を求めたる者なり。

孔子が言うには、私は聖人ではない。聖人は生まれながらにして色々な物事の道理を知っているものだ。私は周りから、何でも知っていると言われることがよくあるけれども、決してそうではない。昔の人たちはどういうことをしていたのか、興味を持って調べて納得し、それが腑に落ちるたびに自分自身の身体の中に染み込んでいるのだ。だから色々なことに答えられるのだ。休まず、これだと思ったならば即座にその道理を身体の中に染み込ませようと努力をしてきた人間なのだ。

今の世の中でいうと、菅さんは次から次に学者を内閣の官房参与として入れています。アドバイザーばかりを増やして、実行する人間が周りにあまりにもいなさ過ぎです。

「之を知れる者に非ず」という部分で、教えてくれる人がいたら素直に教わるということは非常に良いことですが、相手を選ばなければいけないという気がします。今の放射能汚染問題でテレビに出て「安全だ、安全だ」と言っているのは、東電のお先棒を担いでいる学者の先生達です。東電からお金を貰ってPRをしている学者たちが内閣官房参与に入っているのですから、「安全だ」というのは当たり前のことです。それに反対する人たちの話を調べてみると、危ないと感じることが結構多いのです。実際、広瀬隆さんという作家が双葉町にチェルノブイリの事故の時に使った測定器を持って調査に行ったところ、チェルノブイリ原発から3キロあたりの数値と同じ値が出たそうです。双葉町役場に近づくにつれて、測定器の針が振り切れてしまったそうです。自分の持っている測定器では測りきれないので、もっと大きな数値まで測れる測定器で測っても、やはり振り切れてしまった。政府が発表している数値は、どうも違っているのではないか。チェルノブイリの時の計測よりはるかに酷い数値が出ているという話があります。尚且つ、双葉町では3月13日に160人が被曝しているという内容が小さな記事でちょっと出たのですが、すぐに消えてしまいました。ですから11日以降の新聞をよく見直ししてみると、小さな囲み記事のようなものにちょこちょこ政府にとって困る話が出て、しかも1回で終わってしまうようなことがあります。今、原発から20キロ圏内はもう住めないような土地になっているようです。政府は最初、念の為に批難して下さいという言い方をしたのが、立ち入り禁止区域になりました。それは中に入ると被曝をするということです。ですからもう二度と人が住めない地域になっていて、いずれ政府が土地を買い上げて、誰も立ち入れないようにするのではないかと思います。そこらへんのことを新聞にはきちんと解説ができませんし、説明もありません。色々な学者に教わったのなら、本当のところをきちんと発表しなければいけないと感じます。発表すると国民が騒ぐから発表しない方がよいというアドバイスが耳に心地よいので、発表していないのだからとこの文章を読みました。

20 子 し かいきらんしん かた 怪力乱神を語らず。

怪は妖怪変化、この世にあらざるべきこと。力は暴力。乱は反逆をする。神は鬼神です。全部まとめて、日常生活を営む上で起きてはならない・起きることのないもの、非常事態です。こういうものに関しては、孔子は話をしなかった。

日常生活を送る上での常識的なことを語るのもあって、非常事や異常事については、孔子は語らなかった。まず日常生活のことをまともにやろうではないか、非常事態の時はその時ことだ、と感じます。

日本は今が非常事・異常事態なのですから、そういう時にはそれなりの人間がリーダーシップをとらなければいけません。日本は坂道を転げ落ちるところですから、菅さんが適役だろうと思います。坂道を転げ落ちていく日本を救うのではなくて、突き落とす役になるはずなので現状の民主党はそのままだと感じます。

ちなみに私は今年の年賀状に、<今年日本の経済・社会は大悪化の年回りです。今年の干支「辛卯」の辛は辛く・酷く・苦しい、卯は沢山の人が死ぬという文字ですから、大変な年になる。今年人生の棚卸しをして、禪を締めなおしましょう>と書きました。私が年賀状に書いたのが現実のその通りのことが起こってしまった、と皮肉を言われました。近い将来、同じくらいの自然災害、もしくは今回以上の自然災害が起きるであろうと思っています。今回の地震は始まりだと、色々な人と意見交換をする中で同じ意見を戴いています。皆さんも非常食等の準備を少し多めにされるとよろしいと思います。